



Gy 障害処理の機能強化

- [機能の概要と変更履歴](#) (1 ページ)
- [機能説明](#) (2 ページ)
- [機能の仕組み](#) (2 ページ)
- [Gy 障害処理の設定](#) (3 ページ)
- [Gy 障害処理のモニタリングと障害対応](#) (4 ページ)

機能の概要と変更履歴

要約データ

該当製品または機能エリア	• P-GW • SAEGW
該当プラットフォーム	ASR 5500
機能のデフォルト	無効：設定が必要
このリリースでの関連する変更点	N/A
関連資料	• <i>P-GW Administration Guide</i> • <i>SAEGW Administration Guide</i>

マニュアルの変更履歴



重要 リリース 21.2 および N5.5 よりも前に導入された機能の改訂履歴の詳細は示していません。

改訂の詳細	リリース
セッションを続行しながらトラフィックをドロップする新しいオプションが、クレジット制御グループに関連付けられている FH テンプレートに導入されました。この機能を実現するために、既存の CLI コマンドが強化されています。	21.3
最初の導入。	21.2 よりも前

機能説明

21.3 よりも前のリリースでは、Gy failure-handling-template (FH-template) に、PDN セッションを保持しながら課金対象トラフィックをブロックするオプションがありませんでした。

21.3 以降のリリースでは、PDN セッションを保持しながら課金対象トラフィックをブロックするために、「continue discard-traffic」オプションが Gy failure-handling-template に追加されました。

機能の仕組み

このセクションでは、この機能の仕組みを簡潔に紹介します。

- セッションを続行しながらトラフィックをドロップする新しいオプションが、クレジット制御グループに関連付けられている FH テンプレートに導入されました。この機能を実現するために、既存の CLI コマンドが強化されています。
- 「Continue discard-traffic」FH アクションが適用されると、指定された DCCA セッションのすべてのトラフィックがブロックされます。DCCA セッションでは、PDN（およびその中に含まれるすべてのベアラ）または特定のベアラが参照されます。DCCA セッションが対応するベアラの照合は、FH アクション「続行」のためにそのまま続行されます。オンライン課金が必要なトラフィックだけがドロップされます。
- ルールの変更またはインストールが、純粋なダイナミックルール of PCRF から受信されない限り、「Continue discard-traffic」ステータスが適用されたままになります。オンライン AVP（オンライン=1）は最終的に PCRF から送信され、指定されたベアラ（サブセッション）の Gy セッションが再開されます。この動作は、credit-control-group コンフィギュレーション モードで使用可能な「offline-session re-enable」CLI に基づいています。
- オンライン課金が必要なすべてのトラフィックがドロップされます。
- 課金アクションが識別され、その課金アクションに「オンライン」課金が必要な場合にのみ、対応するドロップアクションが実行されます。

- サブスクライバの「continue discard-traffic」ステータスは、リカバリ後もそのまま維持されます。Gx が Gy セッションを再度有効にしない限り、リカバリ後にトラフィックはブロックされます。



(注)

- Gy 障害処理の強化機能は、PCRF への OCS 障害レポート（リリース 21.0 で導入）および Gy による OCS 障害レポートの強化（リリース 21.2 で導入）機能と連携して動作します。詳細については、対応する『*Release Change Reference*』[英語]を参照してください。
- CCFH/FH テンプレートが Continue アクション（またはこの新しい FH テンプレートの「continue-discard」）を使用して設定され、対応するアクションが実行されている場合、PCRF へのレポートは PCRF への OCS 障害レポート機能に従って発生します。

Gy 障害処理の設定

サブスクライバセッションを保持しながらデータトラフィックを破棄するには、Diameter 障害処理テンプレートのコンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

```
configure
failure-handling-template template_name
msg-type { credit-control-initial | credit-control-terminate |
credit-control-update } failure-type any action continue discard-traffic

end
```

注：

- **msg-type { credit-control-initial | credit-control-terminate | credit-control-update } failure-type any action continue discard-traffic** CLI コマンドを使用すると、プリペイドサーバーとの通信障害がある場合の動作を指定できます。同じメッセージタイプのテンプレート内に複数の障害処理が存在する場合、直近に発生したエラーに基づいてアクションが適用されます。
- アクション「continue」に「discard-traffic」の拡張機能が追加されました。これにより、サブスクライバセッションを保持している間、データトラフィックがブロックされます。
- 障害処理テンプレートに関連付けられている以前の設定は、**no msg-type { credit-control-initial | credit-control-terminate | credit-control-update } failure-type any** CLI コマンドを使用して削除できます。
- 「discard-traffic」キーワードは「continue」アクションと一緒にのみ設定でき、それぞれの障害発生で影響を受けます。
- この CLI オプションは、デフォルトで無効になっています。それぞれの廃棄アクションが必要な場合は、「discard-traffic」キーワードを明示的に設定する必要があります。

Gy 障害処理のモニタリングと障害対応

ここでは、この機能のモニタリングと障害対応について説明します。

Gy 障害処理の show コマンドと出力

ここでは、この機能をサポートする show コマンドとその出力について説明します。

show active-charging credit-control statistics

この show コマンドの出力が拡張され、この機能をサポートする次の新しいフィールドが表示されるようになりました。

- Action-Drop :

出力例の一部を以下に示します。

```
Failure Handling Stats:
  Action-Terminated:      0          Action-Continue:      0
  Offline Active Sessions: 0          Action-Drop:          0
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。